

**父**は現在、トロント・ブルージェイズ2A「ニューハンプシャー・フィッシャーキャッツ」（かつて元巨人の入来祐作投手が所属）のオーナー。長年にわたるMLBファンです。彼の影響もあって、私も子供のころから熱狂的なレッドソックス・ファンでした。当時の私のヒーローは、MLB最後の三冠王カール・ヤストレムスキー。彼のサインをもらおうと、試合後、幾度となくスタジアムのトイレに隠れたものです。'87年に大学卒業後、ニューヨークの企業に就職しましたが、ボストン戦は必ずといっていいほどヤンキースタジアムに足を運びました。圧倒的な数のヤンキース・ファンのなかで、ヤンキースにブーイングを浴びせるのが当時の私の最大のストレス解消法でしたね（笑）。

好敵手ということで、レッドソックスとヤンキースは何かにつけ比較されます。共通しているのは、両ファンともとても情熱的で行儀もいい。しかも野球に関しての知識が豊富という点です。違いはボストン・ファンのほうが最後まで諦めないメンタリティを持っているということでしょう。都市としての規模、球団の経済力といずれもヤンキースには及びませんが、だからこそファンは諦めないでレッドソックスを応援する。そうしたファンの気持ちが、チケット完売記録の更新として表れ、ひいては選手一人ひとりの活躍に影響を及ぼしているのではないかと考えています。

## ボストン・ファンには、最後まで諦めないメンタリティがある。

**Jim Solomon**  
ジム・ソロモン

[ファイヤー・プレイス/オーナーシェフ]

1964年、ボストン生まれ。'87年、ユニオン・カレッジ卒業（在学中、関西外語大に留学）。'92年、ミシガン大学でMBA取得。'01年にオープンさせたレストランは、レッドソックス関係者が集う店として有名。

